(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105685
事業所名	グループホームお城下
(ユニット名)	かめ
記入者(管理者)	
氏名	福島 真理
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>よい匂い よい肌触り よい音(会話) おいしい料理 よい環境(居心地のよい環境)</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○程よい外出の機会 → 気分転換出来た ○コロナに気を付けて外部にふれ合い → 外の様子を知れた</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部の商業地域にある建物の3階と4階部分に事業所は位置し、同じ建物には法人のクリニックが併設されている。事業所周辺には、市役所やデパート、市駅等の人が集まる施設が多く立ち並び、買い物や交通などの生活を送る上で、利便性の良い場所に立地している。事業所前の通りを行き交う人は多いものの、地域に居住する住民は少なく、少子高齢化もあり、コロナ禍以降の地域行事は縮小をしている。また、人生の先輩である利用者の生活リズムや意向を尊重して、心地良く、穏やかに、楽しく、自宅で暮らしているような自由な暮らしが送れるような支援に努めている。年間を通して、様々なイベントや毎月の行事食を企画するとともに、利用者の希望に沿って、喫茶店や買い物、ドライブ、花見等に出かけられるよう支援している。さらに、定年制を廃止し、短時間勤務の職員を雇用するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、近年退職者もおらず、幅広い年齢層で構成され、高齢の職員も多い。加えて、職員同士の仲が良く、管理者との信頼関係も構築され、訪問調査日には、和やかな雰囲気の中で利用者や職員が関わる様子を確認することができた。医療依存度の高い重度の利用者が多く、ほとんどの利用者が、事業所での看取り支援を希望している。終末期には、母体クリニックの医師と看護師との24時間体制での対応のほか、管理者の指導もあり、職員は安心して看取り支援に取り組むことができています。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	出来る範囲で	○	/	○	日々の暮らしの中で、管理者等は利用者から思いや希望等を聞き、申し送りやケース検討会を活用して、職員間で共有している。入居後にも、面会時や電話連絡時等に、家族から思いや意向を聞き取るようにしている。職員間のコミュニケーションは良好に図られ、業務中における口頭での密な情報共有が行われているものの、新たな情報を得た際のアセスメントシートなどへの記載が定着しておらず、定期的な情報の更新もできていないケースが見られた。今後、管理者は、独自のアセスメントシートを活用し、情報の追記や更新作業等を行うことを予定している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族の居ない人はとても難しい。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	できる範囲で	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	していない	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	個々に行っている	/	/	○	入居前に、管理者は利用者や家族と面談して、これまでの暮らしや生活環境等の聞き取りをしている。他の事業所での受け入れが困難な利用者のほか、身寄りがなく、生活保護を受給している利用者等も多く、これまでの暮らしの把握が難しい場合があるものの、病院や施設からサマリーを提供してもらったり、地域包括支援センターや担当の介護支援専門員等から情報を聞いたりするなど、より多くの情報の把握に努めている。利用者の中には、アセスメントシートの作成が行われておらず、関係機関から情報提供された資料のみが利用者の基本情報としているものも見受けられたため、今後は事業所独自のアセスメントシートを活用し、全ての利用者の情報整理等が行われていくことも期待される。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	努力して援助に生かしている	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	行っている	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	行っている	/	/	○	日々の朝夕の申し送りのほか、必要に応じて、その日の出勤職員で利用者の課題等の話し合いをしている。利用者や家族の意向のほか、主治医や看護師の指示やアドバイスなどをもとに、利用者本人の視点で、より良いサービス提供等を検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	申し送りノートの活用	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	なっており	/	/	/	事前に、利用者や家族の意向のほか、主治医や看護師からの情報をもらい、把握した情報をもとに、利用者の課題解決に向けた支援方法等を職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に、出された意見やアドバイスを反映した介護計画を作成している。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	反映している	△	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	行っている	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域は商業地域で関心がない	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	できる範囲で行っている	/	/	○	事業所では、職員の業務の効率化と介護計画の内容を把握するため、口腔ケアなどの基本的な生活パターンと計画の援助内容が時系列に印字された独自の介護記録用紙を使用して、実施した支援内容に○印等を記載している。また、職員の記録の個人差が見られるものの、利用者の発した言葉や表情等を記載している職員もいる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	買い物@行きたいところなど	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	行って居る	/	/	◎	短期目標の期間に応じて、3か月に1回介護計画の見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月全ての利用者のモニタリングを実施し、細かい変化も見逃さずに記録を残している。また、利用者の心身の状況に変化が生じた場合には、状況に応じて関係者で話し合い、介護計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリング活用	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	行っている日々の申し送り	/	/	○	事業所には、高齢の職員や短時間勤務の職員が多く、定期的な会議を開催して職員を招集することは、難しい状況となっている。そのため、事業所では日々の申し送りのほか、その日の出勤職員で話し合う機会を持つようにしている。また、緊急案件が生じた場合には、その都度出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。話し合われた内容は口頭のほか、業務日誌や連絡ノートに記載し、職員間で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	申し送り、連絡ノート	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	連絡ノート活用	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	とても大切にしている状態把握には必要	◎	/	◎	日々の申し送りや話し合いの内容は、口頭のほか、業務日誌や利用者ごとの介護記録、連絡ノートを活用して、職員間で情報を伝達している。出勤時に連絡ノートを確認し、確認後に職員はサインを残している。職員間のコミュニケーションは良好に図られ、必要に応じて、SNSのLINEも活用しながら、情報共有を図っている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	行っている。何気ない会話の中で	/	/	/	日々の暮らしの様々な場面で、職員は利用者の意向を確認するとともに、事業所においても、自宅のような自由な暮らしができるように、寄り添った言動を心がけている。自己決定が難しい利用者には、職員がアドバイスをしながら、着る服などを一緒に選ぶようにしている。また、日々の体操やレクリエーションの参加を無理強いすることなく、職員は利用者の意向を聞くようにしている。さらに、職員は「利用者一人ひとりが主人公である」との共通認識を持ち、一人ひとりの利用者に応じて声をかけ、生き活きた表情を引き出せるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	買い物など	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	あまり時間を強制しない	/	/	/	
		d	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けによる誘導	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	毎日接することで感じ取ったことを伝達している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	特に意識している	○	○	○	事業所では、改まった人権や尊厳等の内部研修は実施していないものの、認知症介護の経験豊富な管理者の日々の指導により、職員は理解している。また、管理者は「職員は意識した行動ができている」と考え、利用者の誇りやプライバシーを大切に言動が行われている。さらに、利用者の希望により、日中に開放している居室が多く見られたが、居室の入室時には、事前に職員から声をかけて、利用者の了解を得てから入室していることを確認することができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	配慮している	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声掛けしてから入室する	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライバシーの問題は勉強している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	できる事のお手伝い	/	/	/	女性同士の嫉妬心から相性の悪い利用者があり、職員はトラブルに発展しないように配席を留意したり、状況に応じて、迅速に間に入って仲介したりするなどの対応をしている。2名の男性利用者も、他の利用者と馴染んでおり、孤立することなく過ごすことができている。日頃から、利用者同士が協力をし合いながら、箱折りなどの作業をする様子も見られる。訪問調査日には、仲の良い利用者同士が、仲睦まじく並んでテレビを見る様子が見られた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士のおつきあいを大切にしている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	努めている	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	気にかけている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ご家族との連絡	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	支援している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	行っている。体調を見て	×	△	○	感染対策による外出制限は徐々に緩和されているものの、日常的な外出支援までには至っていない。希望する利用者や少人数で近隣にある喫茶店に出かけてコーヒーを飲んだり、秋桜などの花を見に行ったりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。季節に応じて、ドライブをして車窓から桜の花を眺めるとともに、近隣の桜並木を散歩している。また、リビングの壁面には、外出時に撮影した利用者の笑顔あふれる写真が多数掲示されていた。季節により、屋上で外気浴をしたり、洗濯物干しを手伝ったりすることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	出来る範囲で	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	理解して、行っている	/	/	/	利用者の重度化に伴い、自分でできることは少なくなってきているものの、洗濯物干しやたたみ、フキの筋取り、土筆の袴取りなど、できることを手伝っている。感染症対策により、厨房内での手伝いは休止しているものの、テーブル拭きや野菜の下ごしらえなどを利用者はしている。また、居室内の清掃や片付けを利用者と職員が一緒に行うなど、できることやできそうなことは時間が掛かっても、極力自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。手伝ってもらった後には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えている。さらに、日課のようにテレビ体操を実施し、利用者の心身機能の維持や向上に繋げている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	できる事をしてもらうことで活気が生まれる	×	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常的にできる事はしてもらっている	/	/	/	訪問調査日には、リビングで和やかに、相互に助け合いや声かけをしながら過ごす利用者同士の様子が見られた。他の利用者が、職員に「トイレに行きたいみたいよ」と、立ち上がろうとしている利用者のことを知らせてくれたり、「呼びよるよ、電話鳴るとるよ」などと伝えてくれたりするなど、利用者同士や職員とは家族のような良好な関係が築かれている。中には、レクリエーションや体操の際に、他の利用者に参加を呼びかける出番を担う利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	ケースバイケースをできようしている	△	△	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ほぼできている				整容の乱れや食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には、さりげなく職員は利用者に声をかけて、手直しや更衣などのサポートをしている。中には、髭剃りなどの整容が面倒くさくて、他人に触られるのが嫌な利用者もおり、職員は工夫した声かけを行い、長年伸びっぱなしとなっていた髭を切り、毎日髭を剃ってさっぱりした様子で過ごすようになった利用者もいる。また、2か月に1回訪問理美容の来訪があり、利用者はカットやカラーをして、おしゃれを楽しんでいる。さらに、重度な状態の利用者にも、毎朝整容をするなど、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	行っている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	私服買い物など				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援している自分で選ぶ				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	日常的に行っている		○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	今は出ていく人がいない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	できる範囲で			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の前の手洗いなど				月1回、各ユニットの3名ずつの料理の得意な職員で構成する給食委員会を開催し、毎月の行事食や各ユニットの献立を作成している。以前は職員が食材の買い出しに行っていたが、感染対策もあり、野菜や魚、調味料など、地域の業者に発注し、配達してもらっている。感染対策が続き、利用者は厨房内に入ることを休止しているが、野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、できることを手伝ってもらいながら職員が調理し、利用者に食事を提供している。入居時に、アレルギーの有無を確認し、現在対象者はいないものの、アレルギーがある場合は、代替の食材を提供するようにしている。茶碗やコーヒーカップなど、自宅から持参している利用者があるものの、こだわりは少なくなり、ほとんどの利用者は、事業所で用意した使いやすい食器等を使用している。重度の利用者が多く、食事の際に、職員は介助やサポートに専念し、利用者と一緒に食事を摂ることはしていない。訪問調査日時点でも、ベッド上で食事を摂る複数名の利用者があり、利用者自身が食べる様子を近くで職員が見守りや食事介助をする様子が見られた。重度の利用者も居室のドアは開放され、調理をする音や匂いを感じる事ができる。中には、主治医の管理のもと、点滴のみで栄養を確保している利用者もいる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	一部手伝える事はしてもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できる事をしてもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーは気を付けている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	行事料理の採用			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食対応				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	行っている介助をしながら			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	看取りまで行っているので一口では表しにくい		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	行っている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	エンシュアリキッドの採用				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会で検討している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	努めている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後、起床後、就寝前の歯磨き	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後や就寝前に利用者へ声をかけて、口腔ケアを実施している。中には、歯科衛生士の資格を持つ職員もあり、利用者の口腔内をチェックするほか、アドバイスをもらうこともある。また、利用者の状況に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。さらに、口腔内の異常や義歯の不具合などが見られた場合には、家族に報告して、訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科衛生士が職員に居るのでチェックしている	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	行っている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	就寝前は入れ歯を外す	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	行っている	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解している	/	/	/	重度化に伴い、寝たきりで、ベッド上でおむつ交換する数名の利用者がいるものの、日中には、介助が必要な利用者であっても、2名体制等で職員が介助を行い、なるべくトイレで利用者が排泄できるよう支援している。また、利用者の状況に応じた排泄用品が使用できるように、職員間で検討するとともに、家族に相談した上で使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表を用い理解している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	行っている	x	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分や食事の形態について	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	気が付けば声掛けの誘導	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	行っている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	できるだけ行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	3日に一度は入れるように工夫している	/	△	◎	事業所では入浴できる曜日や時間帯を決めておらず、週2回程度、利用者が入浴できるよう支援している。中には、希望に応じて、毎日入浴する利用者もいる。また、入浴を拒んだり、介助を嫌がったりする利用者もあり、無理強いすることなく、声かけの工夫などを行い、入浴してもらうことができている。また、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さに対応したり、入浴剤を使用したりするなど、少しでも入浴を楽しめるような支援に努めている。事業所には機械浴槽の設備を整えているものの、機械浴を使用せず、2～3名の職員が個別浴槽での入浴介助をしている。利用者が湯船に浸かる時間を、職員はゆっくりと対話ができる時間と大切に考え、思いなどを聞くこともある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	おkなっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	行っている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	強引に進めない	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックの活用	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○ している					事業所には、入居前から継続して眠剤を服用している2名の利用者があるものの、日中に体操等を取り入れて活動量を増やすなど、安易に眠剤を使用せず、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。また、利用者の生活リズムを尊重し、夜眠れない利用者には、眠たくなるまで職員が話し相手になるなど、臨機応変な対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○ 本人のリズムを崩さない					
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○ おこなっている					
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○ 本人のリズムで行っている					
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○ 行っている					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○ 本人の意思に従っている					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○ している					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○ 読んで聞かせる					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○ している					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○ 理解している					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△ している					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△ 行っている					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○ 行っている					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○ 得ている					
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○ 行っている		○	◎	外部の病院受診など、家族が同行支援できない利用者が多く、職員が対応をしている。また、個人的な事情も含めて、家族の相談に応じたり、適切な機関に繋げたりするなど、柔軟な支援が行われている。	
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△ 商業地区度難しい		○	○	○	市内中心部の商業地域にある建物の3階と4階部分に事業所は位置し、同じ建物の2階には法人のクリニックが併設されている。建物は周辺の利便性が良く、多くの人が通りを行き交うとともに、建物に分かりやすく看板が設置され、来訪しやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	生活仕様になっている	○	○	○	エレベーター前のフロアから、ユニットの出入り口まではオープンなスペースとなっており、感染対策のフロアマットと手で開閉する柵で仕切られている。こじんまりとしたリビングには、壁掛けのテレビが設置され、利用者はテーブル席に座りながら、見えるように配席されている。また、壁面には利用者の塗り絵の作品が飾られているほか、行事や外出時の写真が貼り出され、利用者の生き生きとした活動の様子を見ることができた。さらに、毎朝職員が次亜塩素酸を使用して床の拭き掃除が行われ、トイレの床も水洗いをするなど、掃除は行き届き、不快な臭いもなく、清潔な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の掃除をきちんと行っている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	行っている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	行っている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	お気に入りのものを使ってもらっている	○	/	○	居室にはエアコンや電動ベッド、タンスが備え付けられている。利用者は衣類や小物、テレビなどを持ち込むことができ、すっきりとタンスなどに収納できるようになっている。また、壁にはハンガーラックも取り付けられ、クローゼット代わりに衣類が掛けられている。さらに、居室の窓はビルのデザイン性を重視した大きな1枚ガラスで、採光が入り明るい空間となっている。利用者は、習字や塗り絵等の作品を飾ったり、自宅から持参した物を配置するなど、居心地の良い空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	無駄なくできている	/	/	/	○ 建物内部はバリアフリー構造で、動線上に手すりが設置され、余計な物を置かず、利用者が安心安全に移動できるようになっている。また、各居室には表札が掛けられているものの、自室が分かりにくい利用者の居室は、立体的な表札を付ける工夫をしている。さらに、2か所あるトイレのドアは、目立つように全面青色で、ピクトグラムや文字で分かりやすくしている。中には、トイレのドアを閉めることを怖がる利用者もいるため、暖簾を掛けて、利用者が安心して用を足せるようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	危険のない範囲で配置している	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	かけていない	○	△	◎	代表者と全ての職員は、玄関や出入り口に鍵を掛けることの弊害を理解し、日中に建物の玄関やユニットの出入り口等の施錠はしていない。また、建物の2階には法人のクリニックも併設され、外来患者の出入りもあるために施錠できない現状となっている。中には、帰宅願望がある利用者もいるものの、職員は見守りや声をかけて対応をしている。訪問調査日には、利用者の穏やかな表情や笑顔が見られ、居心地の良さが感じられた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	話し合っている	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りを徹底して記録に残している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医が常設している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	行っている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	行っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	とくにある時は行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療所法の交換				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常勤の医院の看護師配置				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	体制がある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日看護師がチェックに来る				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	行っている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	行っている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	行っている お看取りの体制指針を作成している				事業所では、「看取り介護に関する指針」を整備し、入居時等に利用者や家族に事業所に対応できることなどを説明している。利用者の状態に変化が見られた場合には、家族と主治医等を交えて話し合い、方針を共有している。救急搬送で入院する利用者を除き、ほとんどの利用者は事業所での看取り支援を希望している。終末期には、母体クリニックの医師や看護師との24時間体制での対応のほか、管理者の指導もあり、職員は安心して看取り支援に取り組むことができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	行っている	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	行っている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	行っている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	行っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	みんなで勉強会を行い、地域での情報も関心を持っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	整えている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	行っている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	マスク着用来訪者の検温、種子消毒など				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○ 整えている					感染対策が続き、終末期以外の利用者との面会は、エレベーターホールで15分～30分の制限を設けて実施するとともに、家族は、事業所の行事に参加することができない状況が続いている。また、身寄りのない生活保護の利用者が大半を占め、家族と連絡が取れる利用者は5名しかいない。職員は利用者の暮らしぶりのほか、日常の様子を写真添えて手紙を送付し、詳細な情報を伝えるようにしている。事業所で発行する「お城下だより」には、個人情報保護の観点から、利用者の顔写真を掲載しておらず、個別にワンショットの写真を家族に送付している。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事は、事業所便りで報告しているものの、近年職員の異動や退職はなく、新入職員もパート職員のため、職員の動向を家族に伝えておらず、今後は、退職者がいない旨を伝えたり、介護を担う職員を紹介したりするなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。加えて、管理者とユニットリーダーは、積極的に来訪時や電話連絡時等に家族に声をかけ、意見や希望を聞くよう努めている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○ 行っている		×		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○ 行っている			○			
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○ 行っている						
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○ 行っている			×			○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎ 行っている						
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○ 行っている						○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎ 説明し理解してもらっている						
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○ 行っている						
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎ 運営推進会議へのご案内				△	事業所は市内中心部の商業地域に立地し、通りを行き交う人は多いものの、地域に居住している人は少ない。以前は秋祭りに子供神輿の来訪もあったが、近年は地域の少子高齢化も進み、校区内での活動も減少している。また、運営推進会議には、町内会長や民生委員に参加協力をしてもらうことができているものの、他の地域住民の参加協力は難しい状況となっている。さらに、法人・事業所として、町内会に加入しているものの、回覧板までは回ってきていない。近隣を散歩していても、声をかけたり挨拶をする住民に出会うことがなく、管理者は地域との関係づくりを模索している。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○ できる範囲で				×		○
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△ 商業地域で困難はある						
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△ 余りできない						
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△ 余りできない						
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△ 余りできない						
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△ 余りできない						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎ ある		△	/	△	運営推進会議には、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催をしている。また、毎回2名ずつの利用者が参加しているものの、連絡の取れる利用者の家族は少なく、参加までは得られていない。会議では、利用者の様子やサービスの実際のほか、食中毒や感染症等の情報提供もしているが、一方的な報告に終わり、参加していない家族に報告できていない。家族のいる利用者は5名と少ない状況ではあるが、家族に議事録を送付したり、意見をもらったりするなど、会議への参画を促す工夫した取り組みが行われることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○ 報告書有り		/	△	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○ 不定期にやっている		/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○ 取り組んでいる		/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○ 分かりやすい言葉を使っている		×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○ 取り組んでいる		/	/	/	医師である代表者は、建物の2階にあるクリニックで勤務をしており、日頃から訪問診療で来訪するとともに、緊急時にも迅速に対応してくれるなど、職員からの信頼も厚い。また、職員の資格取得にも協力的で、外部研修の参加費用を助成している。事業所では職員の定年制を廃止し、短時間勤務のパート職員を採用するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、近年退職者もおらず、幅広い年齢層で構成され、高齢の職員も多い。勤務表の作成も大変となっているものの、管理者は「働いてくれることがありがたい」と考え、職員を大切にしている。職員も「働きやすい環境である」と感じ、信頼関係も構築されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○ 取り組んでいる		/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○ 取り組んでいる		/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○ 研修会の参加		/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○ 行っている		○	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○ 理解し行っている		/	/	○	定期的に、高齢者虐待防止委員会のほか、高齢者虐待防止・身体拘束等廃止検討委員会を開催するとともに、委員会後に内部研修を実施している。また、研修に参加した職員は、学びの報告書を提出するなど、虐待や不適切なケアの防止等の理解促進に努めている。さらに、不適切ケアを発見した場合には、他の職員がフォローに入るなどの対応をするとともに、管理者に報告し、再発防止に向けて職員への注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎ 行っている		/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎ 行っている		/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎ 理解している		/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○ 勉強会を行っている		/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○ 行っている		/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○ 行っている					
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○ 行っている					
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○ 行っている					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△ 全てではない					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△ 努めている					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○ 取り組んでいる					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○ 行っている					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○ 作っている					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○ 行っている					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○ 行っている		○		○	日常の会話の中から、職員は利用者から意見や要望を聞くよう努めている。面会時や電話連絡時に、職員は家族に声をかけて、思いなどを聞いている。また、管理者と職員同士の良好な関係が築かれ、頻繁な会話も行われるなど、個人的な話も含めて、意思疎通が図られている。管理者は、職員から出された意見や提案に耳を傾け、利用者本位の支援をしていくための運営を検討している。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○ 行っている					
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○ 行っている					
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○ 真日の申し送りなど聞きながら行っている				◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○ 取り組んでいる					外部評価の自己評価は、管理者とユニットリーダーで作成し、短時間勤務のパート職員までは参画していない。また、外部評価のサービス評価結果と目標達成計画は運営推進会議で報告しているが、目標達成に向けた取り組み状況までは報告することができていない。管理者は、短時間勤務のパート職員の負担を考えて、自己評価への参画は難しいと考えているが、事業所で勤務する上で自己評価の内容の理解は必要であり、周知に向けて、職員間で検討していくことを期待したい。さらに、目標達成に向けた取り組み状況も、運営推進会議の中で報告して、参加メンバーから意見をもらったり、会議の内容を全ての家族に報告したりするなどの取り組みが行われていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△ できるはいいいにおこなっている					
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△ できる範囲で		△	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○ できる範囲で					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	訓練も行っている	/	/	/	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。水消火器を使用した消火訓練や通報訓練等が実施され、運営推進会議のほか、事業所便りを活用して、家族等に報告している。また、地域の防災訓練の実施の把握まではできていないものの、事業所の建物は現行の耐震基準が満たされ、水や食料などの備蓄品も完備しているため、管理者は、「地域住民の避難場所として提供したい」と考えている。利用者家族等・地域アンケート結果から、事業所の災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、避難訓練の振り返りや課題等を運営推進会議等の中で話し合うなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練も行っている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練も行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署には訓練を2回お願いしている	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	できる範囲で行っている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	発信は地域的に困難がある	/	/	/	事業所は、重度の利用者の受け入れにも協力し、地域包括支援センターや病院等から入居の相談が寄せられた場合には、快く対応している。また、家族の相談支援にも対応するなど、家族との信頼関係づくりが行われている。さらに、市行政や地域包括支援センターなどが主催する会議や研修に参加する機会は減っているものの、運営推進会議に参加してもらうなど、連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	今はない	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	今はない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	今はない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	今はない	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 7 年 2 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 3名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105685
事業所名	グループホームお城下
(ユニット名)	つる
記入者(管理者)	
氏名	木原 弘美
自己評価作成日	令和 7 年 1 月 22 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>よい匂い よい肌触り よい音(会話) おいしい料理 よい環境(居心地のよい環境)</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○ 感染症対策をしつつ気分転換を行う機会をつくる →→少しずつだが機会を設けた。 →→気分転換や表情が明るくなった</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部の商業地域にある建物の3階と4階部分に事業所は位置し、同じ建物には法人のクリニックが併設されている。事業所周辺には、市役所やデパート、市駅等の人が集まる施設が多く立ち並び、買い物や交通などの生活を送る上で、利便性の良い場所に立地している。事業所前の通りを行き交う人は多いものの、地域に居住する住民は少なく、少子高齢化もあり、コロナ禍以降の地域行事は縮小をしている。また、人生の先輩である利用者の生活リズムや意向を尊重して、心地良く、穏やかに、楽しく、自宅で暮らしているような自由な暮らしが送れるような支援に努めている。年間を通して、様々なイベントや毎月の行事食を企画するとともに、利用者の希望に沿って、喫茶店や買い物、ドライブ、花見等に出かけられるよう支援している。さらに、定年制を廃止し、短時間勤務の職員を雇用するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、近年退職者もおらず、幅広い年齢層で構成され、高齢の職員も多い。加えて、職員同士の仲が良く、管理者との信頼関係も構築され、訪問調査日には、和やかな雰囲気の中で利用者や職員が関わる様子を確認することができた。医療依存度の高い重度の利用者が多く、ほとんどの利用者が、事業所での看取り支援を希望している。終末期には、母体クリニックの医師と看護師との24時間体制での対応のほか、管理者の指導もあり、職員は安心して看取り支援に取り組むことができています。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	努めている	○	/	○	日々の暮らしの中で、管理者等は利用者から思いや希望等を聞き、申し送りやケース検討会を活用して、職員間で共有している。入居後にも、面会時や電話連絡時等に、家族から思いや意向を聞き取るようにしている。職員間のコミュニケーションは良好に図られ、業務中における口頭での密な情報共有が行われているものの、新たな情報を得た際のアセスメントシートなどへの記載が定着しておらず、定期的な情報の更新もできていないケースが見られた。今後、管理者は、独自のアセスメントシートを活用し、情報の追記や更新作業等を行うことを予定している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	検討している	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会やお電話時に話し合っている	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	している(個人記録・連絡ノート・ユニット日誌・細かい内容)	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	常に学ぶ姿勢を忘れず留意している	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	以前の暮らしが入居時点で素性分らず困難な方が増えおり本人からの情報を汲み取っている	/	/	○	入居前に、管理者は利用者や家族と面談して、これまでの暮らしや生活環境等の聞き取りをしている。他の事業所での受け入れが困難な利用者のほか、身寄りがなく、生活保護を受給している利用者等も多く、これまでの暮らしの把握が難しい場合があるものの、病院や施設からサマリーを提供してもらったり、地域包括支援センターや担当の介護支援専門員等から情報を聞いたりするなど、より多くの情報の把握に努めている。利用者の中には、アセスメントシートの作成が行われておらず、関係機関から情報提供された資料のみが利用者の基本情報としているものも見受けられたため、今後は事業所独自のアセスメントシートを活用し、全ての利用者の情報整理等が行われていくことも期待される。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	情報の共有を努めている	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	常に新しい情報を共有している	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	状態に応じて検討実行している	/	/	○	日々の朝夕の申し送りのほか、必要に応じて、その日の出勤職員で利用者の課題等の話し合いをしている。利用者や家族の意向のほか、主治医や看護師の指示やアドバイスなどをもとに、利用者本人の視点で、より良いサービス提供等を検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	している	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを伝えられる方はできている	/	/	/	事前に、利用者や家族の意向のほか、主治医や看護師からの情報をもらい、把握した情報をもとに、利用者の課題解決に向けた支援方法等を職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に、出された意見やアドバイスを反映した介護計画を作成している。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族がいる方は話し合いをできており反映している	△	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	心地よい生活内容に心掛けている	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	本人が支え手となるというのは地域的に難しい	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	共有している	/	/	○	事業所では、職員の業務の効率化と介護計画の内容を把握するため、口腔ケアなどの基本的な生活パターンと計画の援助内容が時系列に印字された独自の介護記録用紙を使用して、実施した支援内容に○印等を記載している。また、職員の記録の個人差が見られるものの、利用者の発した言葉や表情等を記載している職員もいる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	時に記録は内容薄い時もあるがノートや日誌と常に申し送りにて支援できている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている	/	/	◎	短期目標の期間に応じて、3か月に1回介護計画の見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月全ての利用者のモニタリングを実施し、細かい変化も見逃さずに記録を残している。また、利用者の心身の状況に変化が生じた場合には、状況に応じて関係者で話し合い、介護計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	行っている	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合見直し話し合い対応している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度関わる者で行っている	/	/	○	事業所には、高齢の職員や短時間勤務の職員が多く、定期的な会議を開催して職員を招集することは、難しい状況となっている。そのため、事業所では日々の申し送りのほか、その日の出勤職員で話し合う機会を持つようにしている。また、緊急案件が生じた場合には、その都度出勤職員で話し合い、迅速に対応をしている。話し合われた内容は口頭のほか、業務日誌や連絡ノートに記載し、職員間で共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	関わる者が忌憚ない意見をしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	ファイリングしているものをいつでも開き観覧できる	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、個人記録、連絡ノートで確認後サインして情報の共有している	◎	/	◎	日々の申し送りや話し合いの内容は、口頭のほか、業務日誌や利用者ごとの介護記録、連絡ノートを活用して、職員間で情報を伝達している。出勤時に連絡ノートを確認し、確認後に職員はサインを残している。職員間のコミュニケーションは良好に図られ、必要に応じて、SNSのLINEも活用しながら、情報共有を図っている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	努力はするも全員となると難しい	/	/	/	日々の暮らしの様々な場面で、職員は利用者の意向を確認するとともに、事業所においても、自宅のような自由な暮らしができるように、寄り添った言動を心がけている。自己決定が難しい利用者には、職員がアドバイスをしながら、着る服などを一緒に選ぶようにしている。また、日々の体操やレクリエーションの参加を無理強いすることなく、職員は利用者の意向を聞くようにしている。さらに、職員は「利用者一人ひとりが主人公である」との共通認識を持ち、一人ひとりの利用者に応じて声をかけ、生き活きた表情を引き出せるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択できる方はしている	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりに合わせて支援している	/	/	/	
		d	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	個性を生かしてできている	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	職員一人ひとりが携わる方に向き合い支援できている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	職員同士対話して学び合い意識して行動注意している	○	○	○	事業所では、改まった人権や尊厳等の内部研修は実施していないものの、認知症介護の経験豊富な管理者の日々の指導により、職員は理解している。また、管理者は「職員は意識した行動ができている」と考え、利用者の誇りやプライバシーを大切に言動が行われている。さらに、利用者の希望により、日中に開放している居室が多く見られたが、居室の入室時には、事前に職員から声をかけて、利用者の了解を得てから入室していることを確認することができた。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	コミュニケーションを取り注意して行っている	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	行っている	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	遵守している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	言葉のキャッチボールを図り交流している	/	/	/	女性同士の嫉妬心から相性の悪い利用者があり、職員はトラブルに発展しないように配席を留意したり、状況に応じて、迅速に間に入って仲介したりするなどの対応をしている。2名の男性利用者も、他の利用者と馴染んでおり、孤立することなく過ごすことができている。日頃から、利用者同士が協力をし合いながら、箱折りなどの作業をする様子も見られる。訪問調査日には、仲の良い利用者同士が、仲睦まじく並んでテレビを見る様子が見られた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	◎	仲の良い方同士、入居者の相性考慮して支援している	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	座席やユニット間で協力して解決に努めている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	お話の中で聞ける限りで把握	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	お手紙などできる限り支援している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	重度認知症の方は難しくなかなかであり感染症対策も、となると毎日など難しい	×	△	○	感染対策による外出制限は徐々に緩和されているものの、日常的な外出支援までには至っていない。希望する利用者や少人数で近隣にある喫茶店に出かけてコーヒーを飲んだり、秋桜などの花を見に行ったりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。季節に応じて、ドライブをして車窓から桜の花を眺めるとともに、近隣の桜並木を散歩している。また、リビングの壁面には、外出時に撮影した利用者の笑顔あふれる写真が多数掲示されていた。季節により、屋上で外気浴をしたり、洗濯物干しを手伝ったりすることもある。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	機会がない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	BPSDの周囲症状を職員同士話し合い理解している	/	/	/	利用者の重度化に伴い、自分でできることは少なくなっているものの、洗濯物干しやたたみ、フキの筋取り、土筆の袴取りなど、できることを手伝っている。感染症対策により、厨房内での手伝いは休止しているものの、テーブル拭きや野菜の下ごしらえなどを利用者はしている。また、居室内の清掃や片付けを利用者と職員が一緒に行うなど、できることやできそうなことは時間が掛かっても、極力自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。手伝ってもらった後には、職員は利用者に感謝の言葉を伝えている。さらに、日課のようにテレビ体操を実施し、利用者の心身機能の維持や向上に繋げている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	している	×	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	各自把握し努めている	/	/	/	訪問調査日には、リビングで和やかに、相互に助け合いや声かけをしながら過ごす利用者同士の様子が見られた。他の利用者が、職員に「トイレに行きたいみたいよ」と、立ち上がろうとしている利用者のことを知らせてくれたり、「呼びよるよ、電話鳴るとるよ」などと伝えてくれたりするなど、利用者同士や職員とは家族のような良好な関係が築かれている。中には、レクリエーションや体操の際に、他の利用者に参加を呼びかける出番を担う利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	取り組んでいる	△	△	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	白髪染めや化粧と把握して行っている	/	/	/	整容の乱れや食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には、さりげなく職員は利用者へ声をかけて、手直しや更衣などのサポートをしている。中には、髭剃りなどの整容が面倒くさくて、他人に触られるのが嫌な利用者もおり、職員は工夫した声かけを行い、長年伸びっぱなしとなっていた髭を切り、毎日髭を剃ってさっぱりした様子で過ごすようになった利用者もいる。また、2か月に1回訪問理美容の来訪があり、利用者はカットやカラーをして、おしゃれを楽しんでいる。さらに、重度な状態の利用者にも、毎朝整容をするなど、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご自身で美容師さんに注文できる方はしてもらっている、できない方は配慮して行っている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	支援している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人で準備してもらったり、一緒に選んでもらったり毎日行っている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	行っている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	努めている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	心地良い様に配慮し支援している	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解している	/	/	/	月1回、各ユニットの3名ずつの料理の得意な職員で構成する給食委員会を開催し、毎月の行事食や各ユニットの献立を作成している。以前は職員が食材の買い出しに行っていたが、感染対策もあり、野菜や魚、調味料など、地域の業者に発注し、配達してもらっている。感染対策が続き、利用者は厨房内に入ることを休止しているが、野菜の下ごしらえやテーブル拭きなど、できることを手伝ってもらいながら職員が調理し、利用者に食事を提供している。入居時に、アレルギーの有無を確認し、現在対象者はいないものの、アレルギーがある場合は、代替の食材を提供するようにしている。茶碗やコーヒーカップなど、自宅から持参している利用者があるものの、こだわりは少なくなり、ほとんどの利用者は、事業所で用意した使いやすい食器等を使用している。重度の利用者が多く、食事の際に、職員は介助やサポートに専念し、利用者と一緒に食事を摂ることはしていない。訪問調査日時点でも、ベッド上で食事を摂る複数名の利用者があり、利用者自身が食べる様子を近くで職員が見守りや食事介助をすることができている。中には、主治医の管理のもと、点滴のみで栄養を確保している利用者もいる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	感染予防(手洗い・マスク・ゴム手袋)して行ってもらう時がある	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	常に全員となると難しいが手伝ってもらった時に必ず感謝を伝えている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	取り入れている	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	工夫している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家から各々使用するものを持ってきている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	一緒に食べる事は介助の要る方が多く難しい。お茶タイムは一緒にする事もある	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	配慮している	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる(連携先クリニックより毎日Nsチェック有り)	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	月一回の給食委員会で話し合い職員へ伝えている	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日の消毒・洗浄	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎ 理解している					職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後や就寝前に利用者へ声をかけて、口腔ケアを実施している。中には、歯科衛生士の資格を持つ職員もあり、利用者の口腔内をチェックするほか、アドバイスをもらうこともある。また、利用者の状況に応じた口腔ケア用品を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。さらに、口腔内の異常や義歯の不具合などが見られた場合には、家族に報告して、訪問歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎ 把握している				◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎ 活かしている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎ 支援している					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎ 支援している(連携先のカウ歯科受診もある)				◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎ 理解している					重度化に伴い、寝たきりで、ベッド上でおむつ交換する数名の利用者がいるものの、日中には、介助が必要な利用者であっても、2名体制等で職員が介助を行い、なるべくトイレで利用者が排泄できるよう支援している。また、利用者の状況に応じた排泄用品が使用できるように、職員間で検討するとともに、家族に相談した上で使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎ 理解している					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○ 各々日々違うが把握している					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○ 行っている			×	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○ 行っている					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○ 行っている					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○ 支援している					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○ その時々で使い分けている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○ 行っている					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎ 支援している			△	◎	事業所では入浴できる曜日や時間帯を決めておらず、週2回程度、利用者が入浴できるよう支援している。中には、希望に応じて、毎日入浴する利用者もいる。また、入浴を拒んだり、介助を嫌がったりする利用者もあり、無理強いすることなく、声かけの工夫などを行い、入浴してもらうことができている。また、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さに対応したり、入浴剤を使用したりするなど、少しでも入浴を楽しめるような支援に努めている。事業所には機械浴槽の設備を整えているものの、機械浴を使用せず、2～3名の職員が個別浴槽での入浴介助をしている。利用者が湯船に浸かる時間を、職員はゆっくりと対話ができる時間と大切に考え、思いなどを聞くこともある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎ 支援している					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎ 支援している					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○ 工夫している					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎ 必ず行っている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	☐	パターン化していない方以外は把握している	/	/	/	事業所には、入居前から継続して眠剤を服用している2名の利用者があるものの、日中に体操等を取り入れて活動量を増やすなど、安易に眠剤を使用せず、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。また、利用者の生活リズムを尊重し、夜眠れない利用者には、眠たくなるまで職員が話し相手になるなど、臨機応変な対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	☐	行っている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	☒	受診時、往診時支援している	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	☐	取り組んでいる	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	☒	支援している(娘様・息子様・ご親戚・ご友人など)	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	☐	話せない方も職員と一緒に電話口にて支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	☐	配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	☐	工夫している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	☐	無理のない様にしてもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	☐	理解している	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	☐	行っている	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	☐	支援している	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	☐	入居時説明している	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	☐	同意を得ている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	☐	取り組んでいる	☐	☒	外部の病院受診など、家族が同行支援できない利用者が多く、職員が対応をしている。また、個人的な事情も含めて、家族の相談に応じたり、適切な機関に繋げたりするなど、柔軟な支援が行われている。	
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	☒	建物的、立地的に難しい	☐	☐	☐	市内中心部の商業地域にある建物の3階と4階部分に事業所は位置し、同じ建物の2階には法人のクリニックが併設されている。建物は周辺の利便性が良く、多くの人が通りを行き交うとともに、建物に分かりやすく看板が設置され、来訪しやすくなっている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	できる限り工夫している	○	○	○	エレベーター前のフロアから、ユニットの出入り口まではオープンなスペースとなっており、感染対策のフロアマットと手で開閉する柵で仕切られている。こじんまりとしたリビングには、壁掛けのテレビが設置され、利用者はテーブル席に座りながら、見えるように配席されている。また、壁面には利用者の塗り絵の作品が飾られているほか、行事や外出時の写真が貼り出され、利用者の生き生きとした活動の様子を見ることができた。さらに、毎朝職員が次亜塩素酸を使用して床の拭き掃除が行われ、トイレの床も水洗いをするなど、掃除は行き届き、不快な臭いもなく、清潔な空間となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝・晩と毎日の清掃	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	工夫している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	工夫している	○	/	○	居室にはエアコンや電動ベッド、タンスが備え付けられている。利用者は衣類や小物、テレビなどを持ち込むことができ、すっきりとタンスなどに収納できるようになっている。また、壁にはハンガーラックも取り付けられ、クローゼット代わりに衣類が掛けられている。さらに、居室の窓はビルのデザイン性を重視した大きな1枚ガラスで、採光が入り明るい空間となっている。利用者は、習字や塗り絵等の作品を飾ったり、自宅から持参した物を配置するなど、居心地の良い空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	している	/	/	/	○ 建物内部はバリアフリー構造で、動線上に手すりが設置され、余計な物を置かず、利用者が安心安全に移動できるようになっている。また、各居室には表札が掛けられているものの、自室が分かりにくい利用者の居室は、立体的な表札を付ける工夫をしている。さらに、2か所あるトイレのドアは、目立つように全面青色で、ピクトグラムや文字で分かりやすくしている。中には、トイレのドアを閉めることを怖がる利用者もいるため、暖簾を掛けて、利用者が安心して用を足せるようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	危険物は避けて置くようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中は施錠しないが夜間は立地上外部の侵入があると危険な為施錠せざるを得ない	○	△	◎	代表者と全ての職員は、玄関や出入り口に鍵を掛けることの弊害を理解し、日中に建物の玄関やユニットの出入り口等の施錠はしていない。また、建物の2階には法人のクリニックも併設され、外来患者の出入りもあるために施錠できない現状となっている。中には、帰宅願望がある利用者もいるものの、職員は見守りや声をかけて対応をしている。訪問調査日には、利用者の穏やかな表情や笑顔が見られ、居心地の良さが感じられた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	話し合っている	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	残している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	努力している	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	支援している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎ 行っている					事業所では、「看取り介護に関する指針」を整備し、入居時等に利用者や家族に事業所に対応できることなどを説明している。利用者の状態に変化が見られた場合には、家族と主治医等を交えて話し合い、方針を共有している。救急搬送で入院する利用者を除き、ほとんどの利用者は事業所での看取り支援を希望している。終末期には、母体クリニックの医師や看護師との24時間体制での対応のほか、管理者の指導もあり、職員は安心して看取り支援に取り組むことができる。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎ 努めている					
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎ 相談している					
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎ ある					
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎ 整えてある					
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎ している(薬情共有)					
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎ 行っている					
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎ 行っている					
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎ 共有している					
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎ 共有している		○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○ 行っている					
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○ 得ている					
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○ 医療関係者とご家族と職員でチーム一丸となり支援している					
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○ 行っている					
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○ 学んでいる					
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○ 感染症対応について学んでいる					
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○ している					
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎ 支援している					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎ 築けている					感染対策が続き、終末期以外の利用者との面会は、エレベーターホールで15分～30分の制限を設けて実施するとともに、家族は、事業所の行事に参加することができない状況が続いている。また、身寄りのない生活保護の利用者が大半を占め、家族と連絡が取れる利用者は5名しかいない。職員は利用者の暮らしぶりのほか、日常の様子を写真添えて手紙を送付し、詳細な情報を伝えるようにしている。事業所で発行する「お城下だより」には、個人情報保護の観点から、利用者の顔写真を掲載しておらず、個別にワンショットの写真を家族に送付している。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事は、事業所便りで報告しているものの、近年職員の異動や退職はなく、新入職員もパート職員のため、職員の動向を家族に伝えておらず、今後は、退職者がいない旨を伝えたり、介護を担う職員を紹介したりするなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。加えて、管理者とユニットリーダーは、積極的に来訪時や電話連絡時等に家族に声をかけ、意見や希望を聞くよう努めている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	× 感染症対策で難しく出来ていない		×		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○ 伝えている		○		○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○ 支援している						
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○ 出来る範囲で行っている		×		○		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○ している						
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○ 積極的には行っていないが話し合っている				○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○ 得ている						
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○ 支援している						
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○ 図っている				△	事業所は市内中心部の商業地域に立地し、通りを行き交う人は多いものの、地域に居住している人は少ない。以前は秋祭りに子供神輿の来訪もあったが、近年は地域の少子高齢化も進み、校区内での活動も減少している。また、運営推進会議には、町内会長や民生委員に参加協力をしてもらうことができているものの、他の地域住民の参加協力は難しい状況となっている。さらに、法人・事業所として、町内会に加入しているものの、回覧板までは回っていない。近隣を散歩していても、声をかけたり挨拶をする住民に出会うことがなく、管理者は地域との関係づくりを模索している。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△ 働きかけは行っているが立地上難しい			×	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○ 町内会、民生委員、近所の店						
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	× 感染症対策で難しい						
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	△ あいさつなど程度で訪問は難しい						
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△ 難しい						
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△ 働きかけや関係を深めるまでなかなかいかない(消防・交番はある)						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	町内会長、民生委員	△	/	△	運営推進会議には、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催をしている。また、毎回2名ずつの利用者が参加しているものの、連絡の取れる利用者の家族は少なく、参加までは得られていない。会議では、利用者の様子やサービスの実際のほか、食中毒や感染症等の情報提供もしているが、一方的な報告に終わり、参加していない家族に報告できていない。家族のいる利用者は5名と少ない状況ではあるが、家族に議事録を送付したり、意見をもらったりするなど、会議への参画を促す工夫した取り組みが行われることも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	している	/	△	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	している	/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	伝えている	×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	医師である代表者は、建物の2階にあるクリニックで勤務をしており、日頃から訪問診療で来訪するとともに、緊急時にも迅速に対応してくれるなど、職員からの信頼も厚い。また、職員の資格取得にも協力的で、外部研修の参加費用を助成している。事業所では職員の定年制を廃止し、短時間勤務のパート職員を採用するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、近年退職者もおらず、幅広い年齢層で構成され、高齢の職員も多い。勤務表の作成も大変となっているものの、管理者は「働いてくれることがありがたい」と考え、職員を大切にしている。職員も「働きやすい環境である」と感じ、信頼関係も構築されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	行っている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	取り組んでいる	○	△	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	理解している	/	/	○	定期的に、高齢者虐待防止委員会のほか、高齢者虐待防止・身体拘束等廃止検討委員会を開催するとともに、委員会後に内部研修を実施している。また、研修に参加した職員は、学びの報告書を提出するなど、虐待や不適切なケアの防止等の理解促進に努めている。さらに、不適切ケアを発見した場合には、他の職員がフォローに入るなどの対応をするとともに、管理者に報告し、再発防止に向けて職員への注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	つくっている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	している	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	つくっている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	話し合っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	行い支援している	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	築いている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	その都度行っている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	行っている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	つくっている	○	/	○	日常の会話の中から、職員は利用者から意見や要望を聞くよう努めている。面会時や電話連絡時に、職員は家族に声をかけて、思いなどを聞いている。また、管理者と職員同士の良好な関係が築かれ、頻繁な会話も行われるなど、個人的な話も含めて、意思疎通が図られている。管理者は、職員から出された意見や提案に耳を傾け、利用者本位の支援をしていくための運営を検討している。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	行っている	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	つくっている	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	している	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	外部評価の自己評価は、管理者とユニットリーダーで作成し、短時間勤務のパート職員までは参画していない。また、外部評価のサービス評価結果と目標達成計画は運営推進会議で報告しているが、目標達成に向けた取り組み状況までは報告することができていない。管理者は、短時間勤務のパート職員の負担を考えて、自己評価への参画は難しいと考えているが、事業所で勤務する上で自己評価の内容の理解は必要であり、周知に向けて、職員間で検討していくことを期待したい。さらに、目標達成に向けた取り組み状況も、運営推進会議の中で報告して、参加メンバーから意見をもらったり、会議の内容を全ての家族に報告したりするなどの取り組みが行われていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組んでいる	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議での報告にて	△	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	掲示にて、また話し合って周知	/	/	/	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。水消火器を使用した消火訓練や通報訓練等が実施され、運営推進会議のほか、事業所便りを活用して、家族等に報告している。また、地域の防災訓練の実施の把握まではできていないものの、事業所の建物は現行の耐震基準が満たされ、水や食料などの備蓄品も完備しているため、管理者は、「地域住民の避難場所として提供したい」と考えている。利用者家族等・地域アンケート結果から、事業所の災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、避難訓練の振り返りや課題等を運営推進会議等の中で話し合うなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	行っている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	確認している	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	取り組んでいる	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない	/	/	/	事業所は、重度の利用者の受け入れにも協力し、地域包括支援センターや病院等から入居の相談が寄せられた場合には、快く対応している。また、家族の相談支援にも対応するなど、家族との信頼関係づくりが行われている。さらに、市行政や地域包括支援センターなどが主催する会議や研修に参加する機会は減っているものの、運営推進会議に参加してもらうなど、連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	困難である	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	できる限りで行っている	/	/	○	